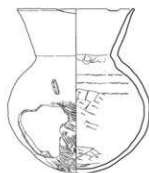


大分市埋蔵文化財発掘調査概要及び 調査報告書 1



2024
大分市教育委員会

序 文

本書は、令和2年度から令和3年度に本市教育委員会が実施しました埋蔵文化財の発掘調査概要及び調査の成果を報告したものです。

令和3年度に実施した5件の本発掘調査、7件の範囲確認調査、28件の試掘・確認調査のうち中世大友府内町跡で実施した調査及び令和2年度実施調査の3件分を本書で報告しています。

本書に掲載した調査は、大分市内各所において計画された各種開発への対応として実施したもので、いずれも小規模な調査となります。調査面積は僅少でしたが、米竹遺跡では弥生時代の貯蔵穴群、北の崎遺跡では鶴崎台地上にある環濠集落の一端や中世前半の建物跡、中世大友府内町跡では推定第1南北街路と道路に沿った工座町の礎石建物の一部がみつかり、それぞれの調査で貴重な成果を得ることができました。

今後も、埋蔵文化財の適切な保護・保存に努めるとともに、その調査成果を速やかに報告・公開することを通じて、積極的な情報発信を進めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本書の活用を願いますとともに、日頃より本市文化財保護行政にご理解とご協力を賜っております皆さまに心から感謝申し上げます。

令和6年3月31日

大分市教育委員会
教育長 佐藤 光好

例言・凡例

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が令和2年(2020)4月1日～令和4年(2022)3月31日の間に行った埋蔵文化財に関する発掘調査についてまとめた概要報告書である。
2. 令和3年度実施調査は第1～3表に、報告する調査地点等の位置は第2・3図に示している。
3. 本書の執筆は、文末に執筆者名を記している。
4. 本書に掲載された遺跡調査の資料整理は、調査担当者をはじめ、大分市教育委員会文化財課職員が行った。
5. 本書に用いた方位はすべて座標北(G.N.)である。調査時は世界測地系の平面直角座標2系のX・Y座標を基点として使用しているが、中世大友府内町跡は報告の際には日本測地系の座標値を記している。
6. 本文中に掲載した現場写真は、各調査担当者が撮影したものである。
7. 本書の構成及び編集は、各調査担当者と塩田調一、佐藤道文、小野綾夏、荒木伴世、米倉加奈絵が行った。
8. 出土遺物および調査の記録・資料は大分市埋蔵文化財保存活用センター(大分市大字田原337番地の5)に保管している。
9. 中世大友府内町跡で用いた出土遺物の分類及び年代観は大分市埋蔵文化財調査報告書第145集「大友府内25」「第三章調査の成果 第1節調査の方法 (3) 府内における遺物分類」に掲載の分類を参考にしている。なお、中世の指標的は土師器・皿等の分類については、以下に例示する。

第1章 大分市教育委員会事務局 教育部 文化財課概要

1. 組織図



2. 組織名簿 (令和3年度)

教育部審議監兼課長 坪根 伸也
政策監 内田 昭浩
参事 栗田 博之

管理業務担当班

参事補 (班長) 佐藤 靖寿
主査 中元 千穂
主任 大島 輝
主事 野地 詩織

史跡整備担当班

参事補 (班長) 池邊千太郎
参事補 中西 武尚
主査 長浜 雅司 五十川雄也
主任 串間 聖剛
主事 山本 尚人
会計年度任用職員 高妻 朗久

文化財活用推進担当班

参事補 (班長) 加藤 英治
主査 小川 将史 長 直信
主事 薮田 佳美
会計年度任用職員 飯田まりか 大塚 克子
大橋 彩乃 後藤 舜果

文化財保護調整担当班

参事補 (班長) 高品 豊
参事補 河野 史郎 佐藤 道文
専門員 (再任用) 平山 馨
主査 (再任用) 安達 高治
主任 小野 綾夏
主事 久保賢太郎
会計年度任用職員 奥津杏都美 伊藤 真由

大分市歴史資料館

参事兼歴史資料館長 植木 和美

管理普及担当班

参事補 (班長) 志賀 良史
主査 大野 三雄 渡辺 政雄
永松 正大 幸 倫子
久多羅岐明 生野 信治
和泉ゆかり 馬場 宏之
手嶋 俊豪

学芸調査担当班

参事補 (班長) 塩地 潤一
主査 松浦 憲治
専門員 (再任用) 塔鼻 光司
増永 祥大
会計年度任用職員 米倉加奈絵 荒木 伴世
甲斐 猛 柳原 淳
神田 太一
安藤 昇
河野 千尋

3. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員 (令和2年5月1日時点)

(氏名)	(勤務先)	(担当)
西別府 元日	広島大学 名誉教授	古代
渡辺 文雄	元 大分県立歴史博物館 館長	古 芸
宗像 健一	元 別府大学 教授	美術
	朝倉文夫記念館 館長	
	元大分市美術館 顧問	
段上 達雄	別府大学 教授	民俗
下村 智	別府大学 教授	考古
鹿毛 敏夫	名古屋学院大学 教授	世界
伊東 龍一	熊本大学 教授	建築
佐藤 香代	大分県先哲資料館 主任研究員	近世
船津 勇一	大分県立鶴崎高等学校 指導教諭	植物
渡邊 ひろ美	大分県立大分舞鶴高等学校 指導教諭	動物

第2章 令和3年度発掘調査概要

令和3年度に大分市教育委員会が実施した発掘調査（本調査）は5件、合計調査面積は1805.5㎡である。また、国庫補助による市内遺跡の範囲確認調査等が7件、合計調査面積は2157.4㎡であった。7件のうち3件が国指定史跡大友氏遺跡の保存整備事業によるもの、4件が個人住宅建設等に対応し、一部記録保存を目的として実施した確認調査である。

開発に伴う確認調査（範囲確認調査は除く）は28件実施している。周知の埋蔵文化財包蔵地のうち、最も多かったのが中世大友府内町跡での6件で、その次に古国府遺跡群が3件、猪野遺跡・葛木遺跡が2件、米竹遺跡ほか9地点が1件ずつと続く。このうち遺跡が発見されたのが14件、その後発掘調査（小規模調査を含む）を実施したのが7件である。

大分市東部の大在地区に広がる下志村遺跡は、旧海岸線に沿って発達した浜堤上に立地する遺跡であり、平成14年度に小学校建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査が行われている（第2次調査）。第2次調査では中世段階の掘立柱建物跡群や15世紀代の祭祀遺構等が発見されており、弥生時代の遺跡として周知されていたが中世の集落遺跡も分布していることが判明した。第2次調査地点の周辺で介護施設建設に伴い行った確認調査では、ビット群や土坑が検出され、旧表土層からは古墳時代の土師器や中世の遺物が出土した。しかしながら、後世の果樹園や造成等により敷地の大半が削平されており、遺構分布が限定されている状況であった。

豊後国銜域に比定される上野遺跡群内では2地点で確認調査を実施した。そのうち1箇所は現金剛宝戒寺の近接地に位置し、官衙もしくは中世寺院に関連する遺構遺物の把握を目的に調査を行ったが、弥生土器破片を含む遺物包舎層（粘質土層・砂質土層）が確認され、それ以外の遺構は検出できなかった。

近年、宅地造成や個人住宅の建設といった小規模開発が著しい鶴崎台地上の遺跡のうち、葛木遺跡の2地点はともに本調査へと移行し、16世紀中頃や古代の遺構・遺物を確認した。米竹遺跡は、介護施設の建設を起因とするもので、第15次調査が位置する開発地点の西側隣接地点である。周辺の調査状況から貯蔵穴群の展開が想定されたが、少数のビットが分布し遺構密度は極めて低い状況である。第15次調査地点と確認調査地点の間で遺構の様相が変化している。

調査件数が最も多い中世大友府内町跡では全地点で遺構が発見されている。戦国時代の横小路町に推定される地点の調査では記録保存を目的とした本調査を行い、大型土坑や溝跡等が密度高く分布する状況を確認した。予定された開発は、改良杭を埋設して個人住宅を建設するものであったため国庫補助金を充当して実施した。

工事立会は、大半は個人住宅の浄化槽設置によるものである。そのうちの柞原八幡宮遺跡の立会地点は、近世の柞原八幡宮絵図によると「権大宮司」と描かれた場所に比定される。立会の結果、戦国時代の土器である土師器坏Bや京都系土師器皿を含む良好に残る遺物包舎層と、その下位に広がる地山（明黄白色粘質土層）からは中世の遺物が出土するビットや土坑が発見された。柞原八幡宮の周辺は調査事例が少ないことから、貴重な成果となった。

また、大分市の南部の山林地内で大規模な開発計画に伴う踏査を行った。計画の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地にあたため伐採が進んだ段階で該当地を現地確認したところ、畑地の開墾に伴い旧地形の改変が認められ、遺跡が残存している可能性は低いと判断した。

令和3年度の開発で顕著な傾向として、個人住宅建設の耐震対策により柱状改良の杭径の大規模化・杭の打設数量の増加という事例が見られた。これにより、遺跡に影響を及ぼす範囲が大きくなり、発掘調査による記録保存が必要になってきている。



第1図 大分市地域区分図

【市内遺跡(保存目的の確認調査等)】

No.	遺跡名	所在地	調査日	事業種別 (内容)	調査 面積	調査 担当者	調査内容	報告予定
1	中世大友府内町跡 第150次調査	錦町2丁目	2021.5.12 ～6.1	受託事業 (個人住宅 建設)	56.0 m ²	小野 奥津 伊藤	火災処理土坑、大型土坑、溝状遺構、井戸跡などを検出した。遺構の時代は16世紀後半～末と位置付けられる。横小路町に直行する溝跡を確認した。	来年度以降 報告予定
2	大友氏館跡 第44次調査	顯徳町3丁目	2021.7.16 ～ 2022.1.14	大友氏遺跡 事業	1296.0 m ²	山本	掘り込み整地に伴う16世紀後半の建物跡や井戸、かわかけ床敷遺構、白・黒玉砂利の集中範囲など、館南西部分の空間利用を確認することができた。	来年度以降 報告予定
3	米竹遺跡 第17次調査	大字千歳字米竹	2021.11.4 ～11.15	受託事業 (個人住宅 建設)	11.5 m ²	小野 伊藤	ピットや土坑、溝状遺構を検出した。調査地点は周辺に比べ、遺構密度は低い。	本書所収
4	中世大友府内町跡 第153次調査	六坊北町	2021.11.19 ～11.29	受託事業 (個人住宅 建設)	54.0 m ²	佐藤	推定御蔵場の範囲内で調査を行った。大型遺構が重複して確認された。	-
5	中世大友府内町跡 第155次調査	六坊北町	2021.12.14 ～12.27	受託事業 (宅地造成)	81.9 m ²	小野 伊藤	調査地の一部が推定御蔵場のノコギリ町の推定地である。調査で確認した東西道路及び現在も残る斜め方向の南北道路に沿ってピットや土坑等が展開しており、ノコギリ町の町屋の痕跡が見られた。	-
6	大友氏館跡 第45次調査	顯徳町3丁目	2022.1.17 ～1.22	大友氏遺跡 事業	558.0 m ²	山本	上面を覆う機土の下で第22・40次調査で確認された築地基部の延長を確認した。また、これまで掘削によって確認できていなかった、築地基部の掘り込みの西側を確認し、築地基部の東西幅が4m以上になることが明らかになった。	来年度以降 報告予定
7	荷山万寿寺跡 第11次調査	元町字堀ノ口	2022.3.7～ 3.18	大友氏遺跡 事業	100.0 m ²	五十川 中西	近代のカクランにより崩落を受けており、遺構の確認はできなかったが、自然堆積土が良好に残っている箇所を確認した。	来年度以降 報告予定

【発掘調査】

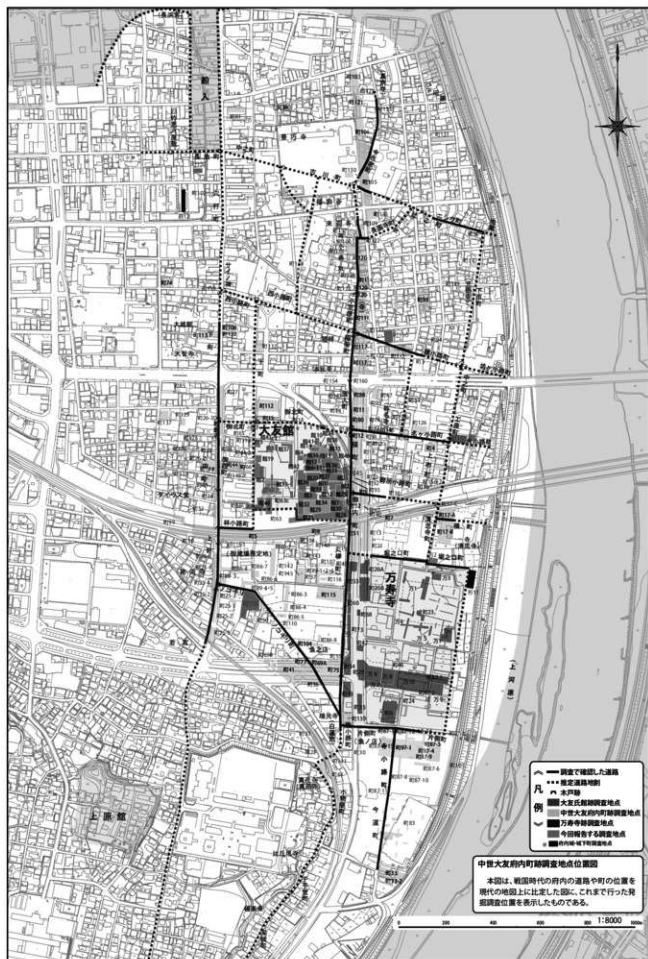
No.	遺跡名	所在地	調査日	事業種別 (内容)	調査 面積	調査 担当者	調査内容	報告予定
1	羽田遺跡 第15次調査	大字羽田	2021.8.2～ 2022.3.25	公共事業 (道路開発)	1580.0 m ²	河野	古墳時代、古代、中世、近世の遺構群を確認した。特に古墳時代後期の竪穴住居跡は縄文百穴とほぼ同時期であり、関係性が注目される。	令和4年度 刊行
2	細遺跡 第3次調査	大字細字清屋敷	2021.8.4～ 10	公共事業 (道路開発)	64.0 m ²	佐藤	掘立柱建物跡・土坑・大型の溜まり状遺構を検出した。遺構の時期は16世紀頃と考えられる。	-
3	中世大友府内町跡 第151次調査	錦町3丁目	2021.8.19 ～10.4	受託事業 (事務所建 設・宅地造 成)	109.0 m ²	小野 奥津 伊藤	道路状遺構、礎石建物跡、廃棄土坑、大型遺構(井戸か)、伊跡などを検出した。遺構の時代は15世紀後半～16世紀末と位置付けられる。	本書所収
4	葛木遺跡 第7次調査	大字葛木字西ノ平	2021.10.20 ～25	受託事業 (宅地造成)	59.5 m ²	小野 伊藤	2条の溝状遺構と4基の土坑を確認した。土坑は廃棄土坑と井戸跡と考えられる。	本書所収
5	中世大友府内町跡/府内城・城下町 第152次調査	大手町1丁目	2021.11.2 ～5	受託事業 (事務所建 設)	34.0 m ²	佐藤	堀跡と江戸時代の整地跡と掘り込みを伴う埋戻跡。これらの遺構群に掘削される中世の遺構群(土坑・整地跡)を検出した。	-

【確認調査】

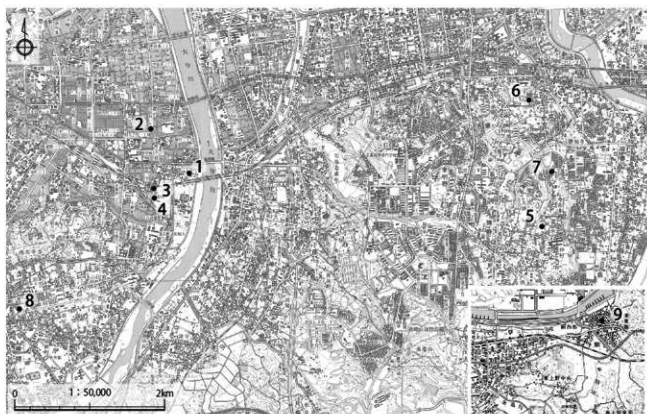
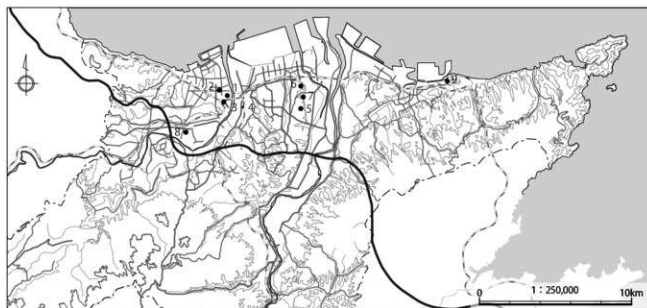
No.	遺跡名	所在地	調査日	地域	種別	調査原因	調査面積	調査担当者	調査結果	措置
1	中世大友府内町跡	錦町2丁目	2021.4.8	A	民間	個人住宅建設	26.5 m ²	小野、奥津、伊藤	遺跡確認	発掘調査
2	古国府遺跡群	二又町2丁目	2021.5.18	A	民間	宅地造成	3.8 m ²	佐藤	遺跡未確認	工事着工
3	専修寺遺跡	大字森町字栗坂通	2021.5.26	E	民間	店舗建設・宅地造成	5.0 m ²	佐藤	遺跡未確認	工事着工
4	上野遺跡群	上野丘2丁目	2021.5.28	A	民間	個人住宅建設	8.2 m ²	佐藤	遺跡未確認	工事着工
5	古国府遺跡群	古国府1丁目	2021.6.1	A	民間	個人住宅建設	8.0 m ²	佐藤	遺跡未確認	工事着工
6	中世大友府内町跡	錦町3丁目	2021.6.10	A	民間	事務所建設・宅地造成	13.1 m ²	小野、奥津、伊藤	遺跡確認	発掘調査
7	今市宿場跡・石畳跡	大字今市	2021.6.21	H	公共	ひろば整備	24.0 m ²	佐藤	遺跡未確認	工事着工
8	葛木遺跡	大字葛木	2021.6.22	E	民間	宅地造成	83.1 m ²	小野、伊藤	遺跡確認	発掘調査
9	下志村遺跡	角子原1丁目	2021.7.6	F	民間	老人ホーム建設	95.6 m ²	佐藤、小野、伊藤	遺跡確認	工事着工
10	古国府遺跡群	大字羽屋字狭間	2021.7.8	A	民間	集合住宅建設	20.3 m ²	小野、奥津、伊藤	遺跡確認	工事着工
11	府内城・城下町、中世大友府内町跡	大手町1丁目	2021.7.20	A	民間	事務所建設	30.0 m ²	佐藤、小野	遺跡確認	発掘調査
12	杉原石造跡、杉原遺跡、東津留遺跡	大字杉原字落水	2021.8.6	C	民間	太陽光発電	現地踏査のみ	佐藤	遺跡未確認	工事着工
13	上野遺跡群	大字上野字植山	2021.8.20	A	民間	個人住宅建設	12.0 m ²	小野、奥津、伊藤	遺跡未確認	工事着工
14	米竹遺跡	大字千歳字米竹	2021.8.24	E	民間	老人ホーム建設	26.8 m ²	佐藤	遺跡確認	工事時に立会調査を行う
15	府内城・城下町、中世大友府内町跡	大手町1丁目	2021.9.8	A	民間	事務所建設	23.4 m ²	佐藤	遺跡確認	発掘調査
16	横尾遺跡	大字横尾字多武尾	2021.9.28	E	民間	集合住宅建設	8.0 m ²	佐藤	遺跡未確認	工事着工
17	米竹遺跡	大字千歳字米竹	2021.10.5	E	民間	個人住宅建設	8.0 m ²	小野、伊藤	遺跡確認	発掘調査
18	米良草遺跡	大字猪野字山野	2021.11.1	E	民間	集合住宅建設	11.5 m ²	佐藤	遺跡未確認	工事着工
19	中世大友府内町跡	錦町	2021.11.24 ～26	A	公共	下水道管布設工事	20.0 m ²	佐藤	遺跡確認	発掘調査
20	末広遺跡	末広町1丁目	2021.12.8	A	民間	集合住宅建設	2.8 m ²	小野、伊藤	遺跡未確認	発掘調査
21	坂ノ市遺跡	坂ノ市中央5丁目	2022.1.6	G	公共	小学校一時使用教室機賃貸借	55.0 m ²	小野、伊藤	遺跡確認	協議中
22	府内城・城下町	荷揚町	2022.1.12	A	公共	庁舎建設	13.0 m ²	佐藤	遺跡確認	工事着工
23	猪野遺跡	大字猪野字小路	2022.1.18	E	民間	集合住宅建設	24.0 m ²	小野、伊藤	遺跡未確認	工事着工
24	大道条里跡	大道町2丁目	2022.2.10	A	公共	プレハブ校舎設置	15.5 m ²	小野、伊藤	遺跡確認 (遺構なし)	工事着工
25	中世大友府内町跡	金池4丁目	2022.2.17	A	民間	集合住宅建設	13.8 m ²	小野、伊藤	遺跡確認	協議中
26	葛木遺跡	大字森字北原	2022.3.10	E	民間	宅地造成	40.0 m ²	小野、伊藤	遺跡確認	発掘調査
27	猪野遺跡、猪野新土井遺跡	大字猪野	2022.3.17	E	民間	宅地造成・位置指定道路	31.0 m ²	小野、伊藤	遺跡確認	工事着工
28	津守遺跡	大字津守字修善寺	2022.3.30、4.15	A	民間	診療所建設	11.0 m ²	小野、佐藤	遺跡未確認	工事着工

【工事立会】

No.	遺跡名	所在地	立会日	地域	事業種別	立会要因	調査面積	担当者	立会結果	最終措置
1	猪野遺跡	大字猪野	2021.5.1	E	民間	個人住宅兼店舗 (浄化槽設置)	土層 観察のみ	佐藤	遺跡未確認	工事着工
2	羽田遺跡	大字羽田	2021.5.17	A	民間	個人住宅 (浄化槽設置)	3.2 m ²	小野	遺跡確認	工事着工
3	猪野遺跡	大字猪野	2021.5.21	E	民間	宅地造成 (擁壁設置)	土層 観察のみ	佐藤	遺跡確認	工事着工
4	杵原八幡宮遺跡群	大字八幡	2021.8.4	A	民間	個人住宅 (浄化槽設置)	3.9 m ²	小野	遺跡確認	工事着工
5	高松東遺跡	高松東2丁目	2021.9.24	A	民間	店舗 (建物基礎設置)	土層 観察のみ	佐藤	遺跡未確認	工事着工
6	横尾遺跡	大字横尾	2021.9.27	E	公共	公園 (トイレ設置)	土層 観察のみ	佐藤	遺跡未確認	工事着工
7	府内城・城下町	大手町3丁目	2021.9.27	A	民間	事務所 (基礎撤去)	土層 観察のみ	佐藤	遺跡未確認	工事着工
8	箕末中学校遺跡	大字中尾	2021.10.5	A	民間	個人住宅 (浄化槽設置)	土層 観察のみ	佐藤	遺跡未確認	工事着工
9	東田室遺跡	田室町	2021.10.20	A	民間	広場整備 (鉄道残存敷の再整備)	土層 観察のみ	佐藤	遺跡確認	工事着工
10	上野遺跡群	大字上野	2021.11.1	A	民間	個人住宅 (浄化槽設置)	6.0 m ²	小野	遺跡確認	工事着工
11	米良草遺跡	大字猪野	2021.11.4	E	民間	個人住宅 (住宅の基礎設置)	6.0 m ²	小野	遺跡確認	工事着工
12	横尾遺跡	大字横尾	2022.1.24	E	民間	個人住宅 (浄化槽設置)	3.0 m ²	佐藤	遺跡確認	工事着工
13	上原館跡	上野丘西	2022.1.25	A	民間	個人住宅 (ブロック塀解体及び 擁壁設置)	土層 観察のみ	佐藤	遺跡未確認	工事着工
14	二目川遺跡	大字横尾	2022.1.27	E	民間	個人住宅 (浄化槽設置)	14.9 m ²	小野 伊藤 奥津	遺跡確認	工事着工
15	北の崎遺跡	大字葛木	2022.1.28	E	民間	個人住宅 (浄化槽設置)	2.0 m ²	佐藤	遺跡確認	工事着工
16	北の崎遺跡	大字葛木	2022.2.24	E	民間	個人住宅 (浄化槽設置)	2.7 m ²	小野	遺跡未確認	工事着工
17	北の崎遺跡	大字葛木	2022.3.2	E	民間	個人住宅 (浄化槽設置)	1.3 m ²	小野	遺跡確認	工事着工
18	津守遺跡	大字津守	2022.3.22	A	民間	個人住宅 (浄化槽設置)	2.6 m ²	佐藤	遺跡確認	工事着工



第2図 中世大友府内町跡 (1/8000)



- 1.中世大友府内町跡 第151次
- 2.中世大友府内町跡 第152次
- 3.中世大友府内町跡 第153次

- 4.中世大友府内町跡 第155次
- 5.葛木遺跡 第7次
- 6.米竹遺跡 第15次・17次

- 7.北の崎遺跡 第4次
- 8.古国府遺跡群確認調査
- 9.細遺跡 第3次

第3図 令和2年および3年度調査地点位置図

第3章 主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告

1 米竹遺跡第15・17次調査

調査面積 438 m² 調査期間 第15次 20.4.21～4.27、5.28～6.2 第17次 21.11.4～11.15

調査担当 第15次（主担当）：佐藤道・山本・伊藤 第17次（主担当）：小野綾夏

1. 遺跡の概要（第4図）

米竹遺跡は、標高40 m前後の鶴崎台地上の先端部に立地し、弥生時代中期を主体とする貯蔵穴と考えられる土坑群が広範囲に、多数検出されている。しかしながら、貯蔵穴群と同時期の竪穴建物跡は未確認であり、集落の実態について未解明な点が多い遺跡である。弥生時代後期の遺構は、遺跡範囲の北と南側で認められるが、点的な分布である。また、南側では、隣接する地蔵原遺跡（古墳時代後期の集落跡・古代の掘立柱建物跡群）との関わりが考えられ、6世紀～8世紀にかけての遺構・遺物が散見する。第15・17次調査地点に隣接する市道を境に地形は東へと傾斜することから、本地点付近が、遺構分布が集中する範囲の東限となる可能性が考えられる。



第4図 調査地点位置図 (1/5000)

2. 調査の概要（第5～7図）

今回、報告地点において宅地造成が計画され、敷地東側の擁壁設置により遺跡の保存に影響を与える範囲を記録保存のための発掘調査を実施した。第15次調査については、1区が擁壁設置部分、2区が宅地内道路の工事中に遺構が不時に発見された範囲で、遺構の分布状況を記録した部分である。第17次調査は、第15次調査の原因となった宅地造成が完成後に計画された個人住宅の建設に伴って実施した発掘調査である。柱状改良杭の径が大きく、本数も多いことから、記録保存を目的とした発掘調査を行った。

調査地の層序であるが、第15・17次ともに共通しており、表土・耕作土を除去すると遺物包含層である黒褐色土が全体に堆積しており、黒褐色土の下位には、粘性が強く、乾燥すると非常に硬質化する黄灰色土（地山）が認められる。報告する遺構群はこの黄灰色土（＝黄灰色土・明茶褐色土）から検出することができた。

確認された遺構は、第15・17次調査区とともに、これまでの米竹遺跡の調査地点と同様、弥生時代中期前葉から後半頃の土坑群が大半である。しかしながら、第15次-1区において古墳時代初頭の竪穴遺構を1基検出したことは特筆される。

3. 遺構・遺物（第8～10図）

第15次-1・2調査、第17次で調査した遺構の大部分は土坑である。これら土坑群は、調査区の制約で形状が不明なものもあるが、平面形状は概ね円形を呈している。規模は径1.2 m (SK012) が最小で、約1.5～1.7 m (SK023・029・030) が多く、2 m (SK025) が最大となる。深度は浅い約0.2 m (SK005)・約0.4 m (SK010・013・025)・約0.8 m (SK023・029) で分布し、断面形状は四角形 (SK005・012・023)、レンズ状 (SK013・025)、袋状 (SK029・030) に区分できる。また、全ての土坑底面の中央付近には径約0.4 m、深度約0.1 m（一部杭状のものがある）、平面円形を呈すビット痕が認められる。土層は細かく分層するような堆積ではなく、遺物包含層である茶黑色土と地山ブロック土の混合土で一気に埋め戻しているような状況であった。遺物は全体的に少ない傾向であり、埋土から出土している資料も弥生土器・甕の破片資料が多い。甕・甕は下城式土器の割合が高く、客体的に東北部九州系の甕が見られることから、弥生時代中期前半～中頃にかけて形成されたものと考えられる。

土坑群以外の遺構としては、溝状遺構 (SD024)、竪穴遺構 (SX001) が挙げられる。SD024は第15次-1の調査段階では土坑と判断していたが、平面・断面形状が他の土坑群と異なるものであった。その後、第15次-2の緊急調査時に東西方向に延伸する溝状遺構を検出し、その延長線上にSD024が位置するため同一遺構と判断した。SX001

茶黒土
(遺物包含層の残り)

第15次-2

茶黒土

弥生土器破片出土
(弥生時代中期後半か)

茶黒土



調査区 1

第17次調査



調査区 1

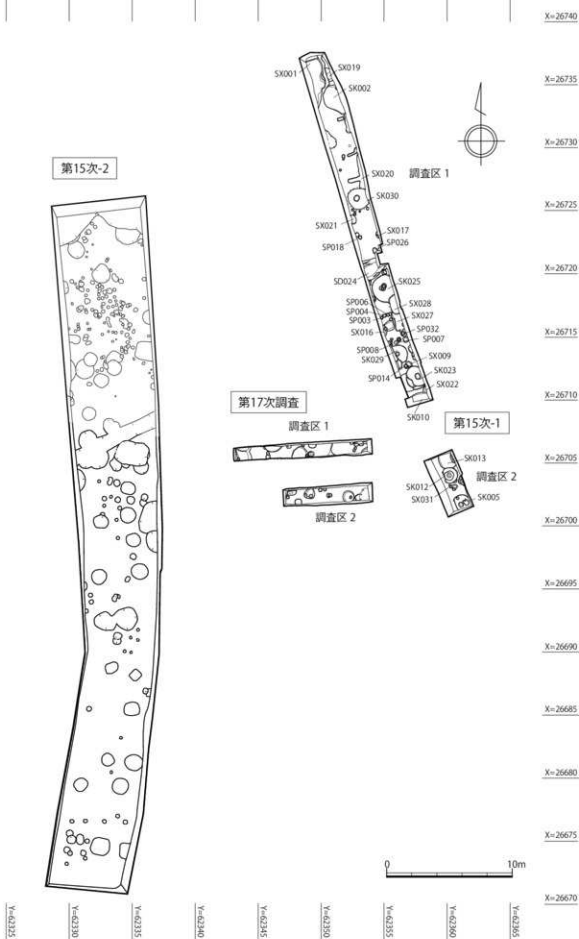
調査区 2

第15次-1

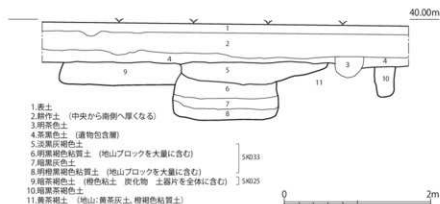
調査区 2

0 10m

第5図 遺構配置図 (1/300)

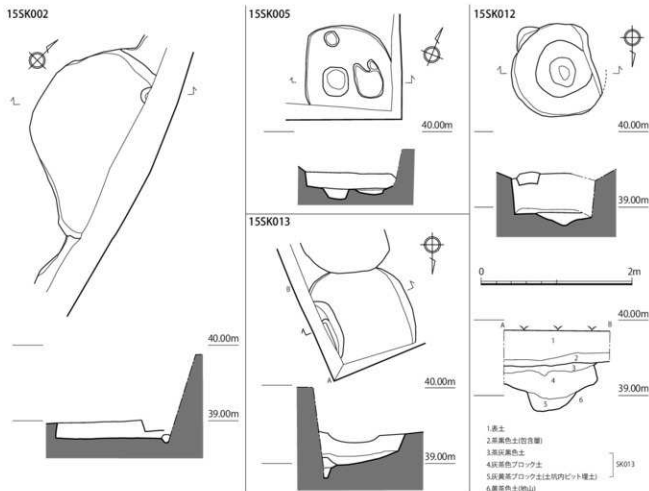


第6図 全体遺構図 (1/300)



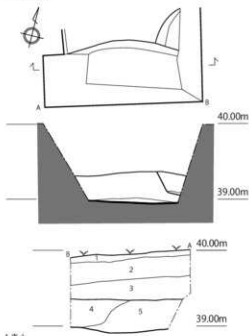
第7図 15次-1 北区東壁土層図 (1/50)

は調査区の北西端付近で検出した竪穴状の遺構である。壁面の立ち上がりが緩やかに傾斜し、床面の形状も不正形で支柱穴等の付属施設も確認されなかったことから、建物跡の可能性は低い。床面直上からは、体部を穿孔した（割られた）、口縁部にも打ち掻きが施された広口壺が穿孔部を上にして横向きの状態で出土し、その隣では小型の鉢が口縁部を直上に向け正位置を意識したような状態で発見された。遺構が埋まる・埋戻す際の土層中に流れ込んだような、又は投棄されたような自然性は認め難く、人為的に埋納した可能性が高い。広口壺は頸部から肩部は撫で肩気味を呈し、体部は球体状をしており、内面は細かく連続した工具ナデが斜め方向に連続して行われる。鉢はレンズ状の底部を有し、内面は広口壺と同様に連続した工具ナデで最終調整がされる。広口壺の特徴から弥生時代終末期～古墳時代初頭に該当するものと考えられる。



第8図 土坑個別遺構図① (1/50)

155K010



- 1.表土
2.耕作土
3.茶褐色土(包含層)
4.暗茶褐色土(土器片・白色胎子を含む)
5.茶褐色ブロック土(地山ブロックを含む)
6.黄茶褐色土(地山)

SK010様土

155K023



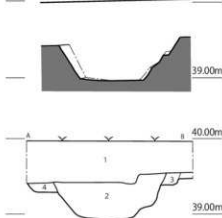
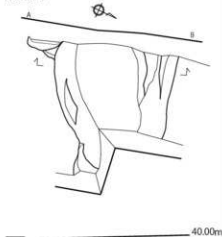
- 1.表土
2.耕作土
3.茶褐色土(包含層)
4.暗茶褐色土
5.暗茶褐色土(暗褐色粘質土ブロックを含む)
6.暗茶褐色土(暗褐色粘質土・炭化物を含む)
7.暗茶褐色土(やや粘質・暗褐色粘質土ブロックを含む)
8.暗茶褐色土(暗褐色粘質土・土器片を少量含む)
9.暗茶褐色土(暗褐色粘質土・炭化物を多く含む)

SK010

SK015

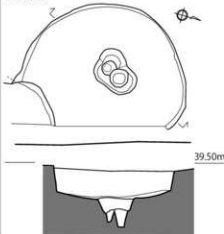
SK023

155K024

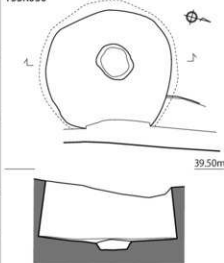


- 1.表土
2.暗茶灰褐色土(やや粘性あり・炭化物・褐色粘土を少量含む)
3.暗茶褐色土
4.暗茶灰褐色土

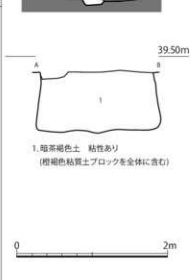
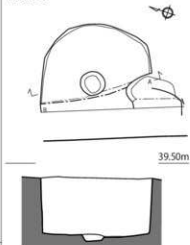
155K025



155K030



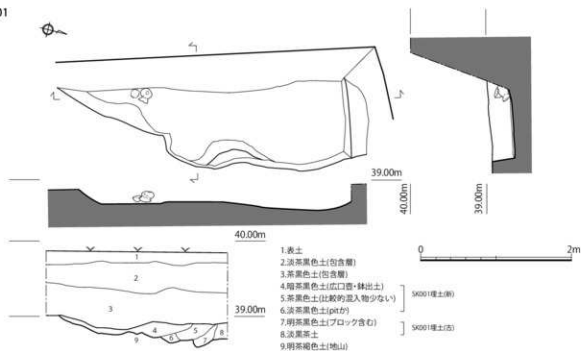
155K029



- 1.暗茶褐色土 粘性あり
(暗褐色粘質土ブロックを全体に含む)

0 2m

第9図 土坑個別遺構図② (1/50)



第10図 土坑個別遺構図② (1/50)

SK023

-2.8+α-(19)
弥生土層 腰付鉢-1.41+α-
弥生土層 腰 (下城式)-2.1+α-
弥生土層 腰

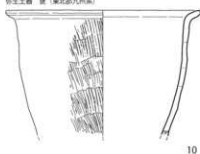
SD024

-12.3+α-5.8
弥生土層 腰 (下城式)

SK025

9.3+α-4.7+α-4.2
石鏡 磨製石片

SK030

-6.5+α-
弥生土層 腰 (下城式)-5.4+α-6.4
弥生土層 腰-15.0+α-
弥生土層 腰 (下城式)(20.5) -13.3+α-
弥生土層 腰 (東北部九州系)(30.0) -17.7+α-
弥生土層 腰 (下城式)-6.2+α-6.0
弥生土層 腰 (下城式)-4.0+α-6.4
弥生土層 腰 (東北部九州系)

第11図 SK023・SK024・SK025・SK030 出土遺物 (1/4)

SK033

(72) -52+a-
弥生土層 竈 (板付瓦)



14

-69+a- (7面)
弥生土層 竈



16

-55+a-
弥生土層 竈 (板付瓦)



15

-72+a-
弥生土層 竈 (下板付)



17

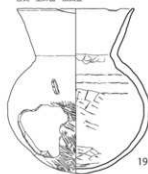
SX001

13.07.1-37
弥生土層 鉢



18

12.4-17.5
古式 土師器 広口甕



19

0 20cm

第12図 SK033・SX001 出土遺物 (1/4)

写真図版 1



第15次-1 北区全景(南から)



第15次-1 北区東壁土層観察時(西から：部分)



第15次-1 北区 SK025 完掘状況(東から)



第15次-1 南区全景(北から)



第15次-1 北区 SK030 遺物出土状況(北から)



第15次-1北区SK030 掘削状況(南西から)



第15次-1北区SK030 完掘状況(西から)



第15次-1北区SX001 遺物出土状況(北から)



第15次-1北区SX001 遺物出土状況(詳細:東から)



第15次-2南遺構検出状況(北から)



第15次-2北遺構検出状況(南東から)

4. 総括

米竹遺跡のこれまでの調査における最大の課題は、土坑群を形成する母体となる集落域の発見であった。しかし、今回の3地点での発掘調査においても住居跡や建物跡は確認されなかった。土坑群の分布は、遺跡が立地する台地上の北側先端部から米竹遺跡第6次調査区までは確実に広がり、当該地点を境に南側にかけて土坑群の分布密度は低くなる。当該エリアにおいて竪穴建物跡や掘立柱建物跡といった居住空間は今のところ皆無である。また、米竹遺跡の主体となる時期は弥生時代中期である、弥生時代後期以降になると遺構数が極端に減少し、台地北側の縁辺部で若干見受けられるといった程度である。

このような点から、弥生時代中期段階の米竹遺跡は、モノの備蓄域（土坑群＝貯蔵穴群）であり、居住域は、遺跡単位で広がるのではなく、南北に細長い台地上に形成されている可能性がある。

よって、台地上で既に確認されている弥生時代の遺構群と立地環境の整理・検討を進めることが、課題の解消になるとともに、大分市内における弥生時代の集落の実情にせまることができるものと言える。（佐藤）

2 北の崎遺跡第4次調査

調査面積 420 m²

調査期間 21.1.12～2.10

調査担当

山本尚人・奥津杏都美・伊藤真由

1. 遺跡の概要（第13図）

北の崎遺跡は、鶴崎台地上の先端部に位置しており、周辺では宅地造成に伴って過去に発掘調査が実施されている。本調査地から北に約150mの地点で行われた第1次調査では弥生時代後期～古墳時代初頭にかけての集落跡を確認し、調査区西側に向けて屈曲するV字状の溝を有する環濠集落跡であることが判明している。また、調査区の中央付近で中世の南北方向の溝状遺構も確認され、さらに本調査地の西側に隣接する第2次調査では、中世の館跡と考えられる溝状遺構と掘立柱建物跡を確認している。



第13図 調査地点位置図（1/5000）

2. 調査の概要（第14図）

今回、宅地造成計画に伴い令和3年1月12日～2月10日にかけて発掘調査を実施した。確認調査では弥生時代後期の竪穴建物跡や中世前半期と思われる柱穴を確認しており、本調査では、弥生時代と中世を中心とした遺構の検出が想定された。調査の結果、現地表面より約0.4m下の明黄褐色粘質土の上面で多数の柱穴や土坑、竪穴建物跡、溝状遺構を検出した。遺構の時期は主に2時期に分かれ、弥生時代中・後期と14世紀代のものが中心となる。竪穴建物と中世のビットの埋土が類似しており、竪穴建物跡を掘り下げ中に柱穴を検出することがあった。そのため、竪穴建物跡の出土資料中には中世前半期の遺物が混入している。

3. 遺構・遺物（第14～17図）

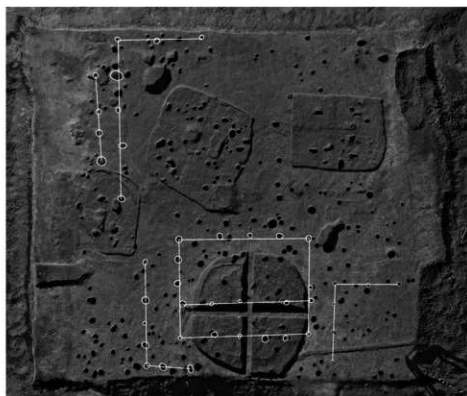
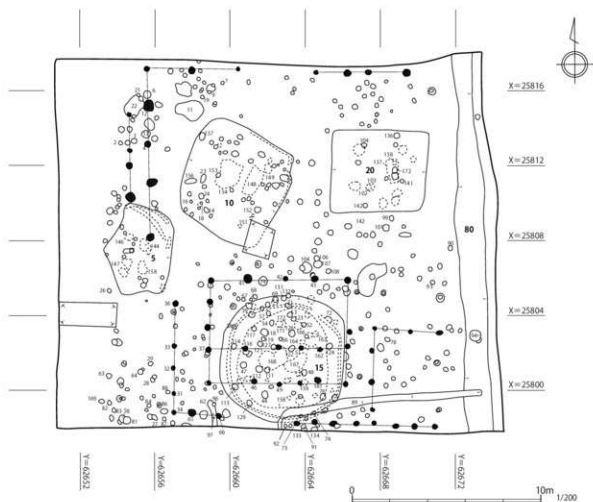
弥生時代の遺構

この時期の遺構は、円形竪穴建物跡（SI015）と方形竪穴建物跡（SI005・010・020）、貯蔵穴と考えられる土坑（SK011）1基である。円形竪穴建物跡（SI015）は径が約7mである。廃絶段階の埋土中から複合口縁・袋状口縁壺や口縁部がくの字状になる甕、高坏、鉢、有翼器台、大型の特殊器台が出土した。これらの特徴から弥生時代後期前半～中頃にかけて形成・埋没したと位置づけられる。SI005は残存状況が悪く不定形となっているが、本来は方形を呈していると推測される。SI010・020は1辺が5m前後の方形の竪穴建物跡である。SI020は床面から主柱穴が4基検出された。貯蔵穴（SK011）は、断面形状がフラスコ状になるもので、下城式甕破片が出土している。

中世の遺構

この段階の遺構は、掘立柱建物跡1棟、櫓跡4条、溝状遺構（SD080）を確認した。掘立柱建物跡は、梁間3間、桁行4間の東西棟であり、南側に1間×5間の庇が付く。掘立柱建物跡の周囲には、櫓跡が展開しており軸線が一緒である点から同時代のものと推測される。検出段階やその他柱穴からは、中世土師器の小片や東播系埴輪の体部が出土している。

溝状遺構（SD080）は、調査区東端で南北方向に延伸し、礫混じりの暗褐色粘質土から多量の遺物が出土した。埋土を除去すると床面から歪な楕円形状を呈す小ビットが確認されており、道路状遺構に認められる連続土坑である可能性が高い。遺物は、土師器環や国産陶器常滑焼甕、東播系埴輪が出土しており、14世紀前半頃と位置づけられる。これに加えて、土製品が一定量まとまって出土している。用途は不明ながら形状は扁平で、幅は10cm程度、厚さが5cm程度のもの（40・48）がある。一部のものには面取り加工が施されたもの（39・48）や、成形時の圧痕とみられる条痕が認められるもの（39・41・48・49）がある。その他、検出段階や遺構埋土中に13世紀代の土師器や龍



第14図 遺構配置図 (1/200)・調査区上面空中写真 (上が北)

SI005

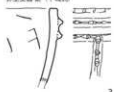
63-36
弥生土器鉢 (ミニチュア)

1

104-104+a
弥生土器甕口 (短期) 壺

2

SK011

-79+a-
弥生土器 甕 (下城式)

3

長 8.9+a、幅 6.9+a、厚 4.7+a
石製品 短石

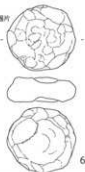
4

SI015

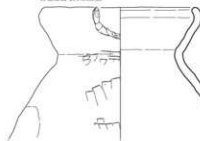
-6.4+a-
弥生土器 高坪

5

SI015①

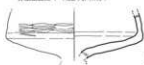
72-70-25
弥生土器 加工土器片

6

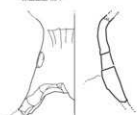
(160)-14.0+a-
弥生土器 袋状口縁壺

7

SI015B②

-6.0+a-
弥生土器高坪 (北部九州系)

8

-11.7+a-
弥生土器 高坪

10

-4.6+a-(4.2)
弥生土器 甕 (ミニチュア)

11

-10.3+a-(5.6)
弥生土器 甕

13

-5.6+a-(14.0)
弥生土器 甕付

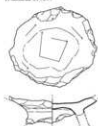
9



12

-6.9+a-
弥生土器 甕

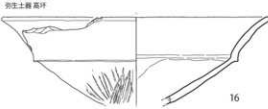
SI015C

-3.0+a-
弥生土器 甕付鉢

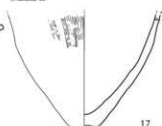
14

-11.1+a-
弥生土器 甕付

15

(28.2)-9.7+a-
弥生土器 高坪

16

-10.9+a-2.8
弥生土器 甕

17

10.5-8.5+a
弥生土器 甕

18

(23.4)-9.9+a-
弥生土器 甕

19

(16.0)-8.7+a-
弥生土器 甕付口縁壺

20



20cm

第15図 SI005・SK011・SI015 出土遺物 (1/4)

SI015D

-4.1+a-

砂生土層 溝



21

-7.6+a-4.4

砂生土層 溝



22

SI015 暗褐色土

-4.0+a-

藏文土層 深跡 (西平式)



25

-8.2+a-

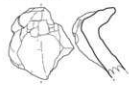
砂生土層 有翼斷面



26

-7.4+a-

砂生土層 有翼斷面



27

-11.4+a-

砂生土層 溝跡



28

0 20cm

SI015 検出時

(14.8)-3.1-(9.6)

土砂層 坪 a (記入)



23

8.5+a-9.0-4.5

石製品 砂石 (砂砂層)



24

10.5+a-7.5-1.9

石層 磨製石斧 (凍製品・結晶片石)



29

SI020

-4.2+a-

砂生土層 溝付跡

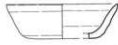


30

SD080①

(11.8)-3.65-(8.4)

土砂層 坪 A



31

-1.6+a-(9.6)

土砂層 坪 A



32

-4.8+a-

瓦質土層 溝跡



34

(48.0)-8.2+a-

土砂質土層 跡



33

-2.5+a-(13.2)

瓦質土層 跡



35

-5.8+a-(12.8)

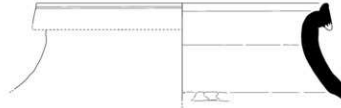
須里層 池



36

(31.0)-10.4+a-

豆腐陶器 釜 (常滑焼)



37

(18.6)-1.5+a-

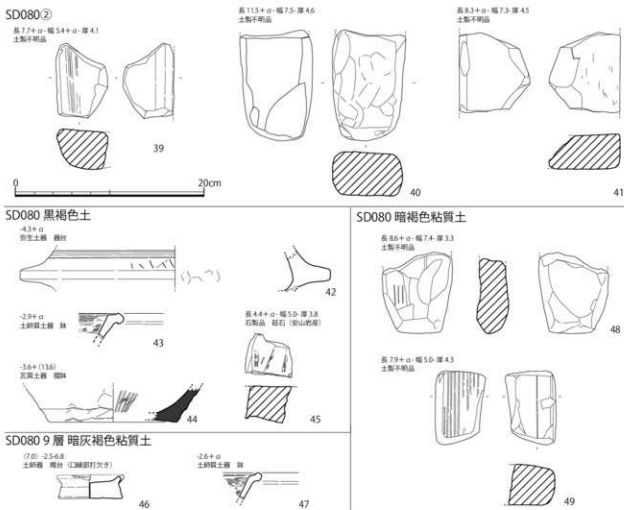
龍泉窯青磁碗 (大卒の分限 1-5-b 類)



38

0 20cm

第 16 圖 SI015 ②・SI020・SD080 ①出土遺物 (1/4)



第 17 図 SD080 ②出土遺物 (1/4)

泉窯系青磁碗が認められる。

今回の調査の結果、申請地は周辺の調査地と同様、弥生時代中期・後期と 14 世紀の遺構が広がっていることが確認された。弥生時代の遺構については、第 1 次調査で確認された環濠集落に関係したものであるとみられ、集落の広がり的一端が明らかになった。

また、今回確認した 14 世紀代の建物跡や櫓跡と北の崎遺跡第 2 次調査で確認された建物跡や櫓跡は方位が同じであり、関連した同時期の遺構であると考えられる。また、明確に示せていないが、SD080 出土遺物には 13 世紀代の遺物が認められ、本遺構が鎌倉時代から存続していた可能性がある。(佐藤)



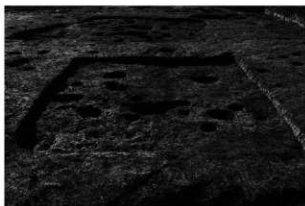
調査地遠景(南西から)



調査区全景(南東から)



SI015 完掘状況(南東から)



SI020 完掘状況(東から)



SD080 検出状況(北から)



SD080 確出土状況(北から)



SD080 土層観察時(北から)



SD080 完掘及び床面ビット検出時-(南から)

3 中世大友府内町跡第151次調査

調査面積 109.0 m²

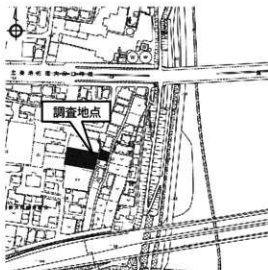
調査期間 21.8.19～10.4

調査担当 小野綾夏・奥津杏都美・伊藤真由

1. 遺跡の概要（周辺の状況）（第18図）

中世大友府内町跡第151次調査地点は、現在の大分川に最も近い場所、万寿寺を基点とする仮称第一南北路（以下、第一南北路）及びその道路沿いに立地する両側町で、「戦国時代の府内復興想定図」によると工座町に該当する。江戸時代の城下町には6体の蛭子が祀られていた。この蛭子信仰は中世まで遡り、大友家初代の能直の頃に、工座町に蛭子を勧請したのが始まりと言われている。工座町が立地する第一南北路沿いには上町や下町といった「市」にまつわる「まち」が並んでいることから、商業エリアとして位置づけられていたと推測される。

周辺では、町151次の西側に、町4次調査地点がある。町4次調査では、15世紀後半から16世紀前半頃を境として遺跡の様相が大きく異なる。区画施設であった溝跡が道路状遺構へ、遺物の組成がかわらけ主体から陶磁器が増加し、かわらけの組成が低くなるという成果が得られている。更に西側に位置する町126次や、南側の町156次調査でも同様な現象が認められる。これは屋敷地が町屋へと変化したことを表しているものと考えられる。



第18図 調査地点位置図 (1/5000)

2. 調査の概要（第19～23図）

今回、事務所建設が計画され、対象地の大部分は盛土造成であったが、擁壁設置に伴い遺跡に影響が及ぶことから、約109.0 m²を対象に埋蔵文化財発掘調査を実施した。敷地北側を1区（幅1.3 m・長さ38.5 m）、南側を2区（1.3 m・長さ35 m）と設定し、発掘調査を行った。

遺構は表土を除去すると旧耕作土層が表出する。両調査区は、西から東に向かって地形が傾斜しているため、東にかけて旧耕作土層を含む表土層が厚くなる（表土層の厚さ：西が約0.2 m～0.75 m、東が0.5 mで一律）。その下位から焼土を多く内包する層が認められる。2区の調査は、礎石のような石や16世紀代の遺物が一定量認められたことから、この層の上面で遺構検出作業を行ったものの、礎石列をはじめとした明確な遺構は確認できなかった。このため、焼土層を一部掘り下げて下位の土層堆積状況を確認したところ、焼土層の下位で遺構を検出することができた。

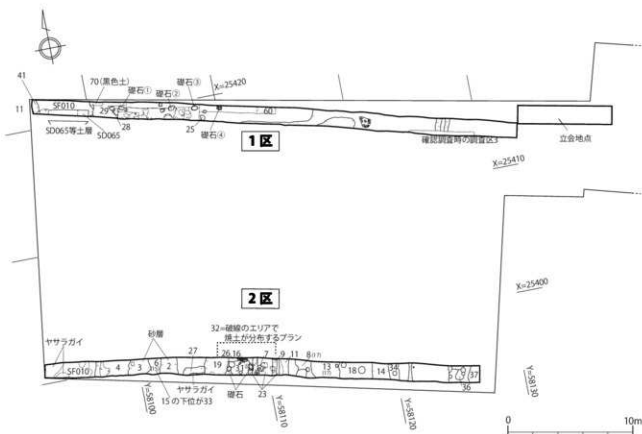
引き続き、遺構の検出を行うために焼土層（SX032・第21図の2区土層模式図 黒塗り部分）の掘削を行い、出土遺物の所属年代から16世紀末頃の火災処理層もしくは簡易な整地層であることが判明し、焼土層（SX032）の下位からは道路状遺構をはじめ、礎石列や溝状遺構、そしてヤサライ殿の集中範囲等を確認した。これらの遺構は、擁壁工事により破壊されるおそれがないことが判明したことから、遺構の掘削は礎石の埋設状況や遺構の年代を把握するために必要な最小限の範囲をし、完掘はしていない。

出土した遺物は、16世紀後半～末段階の資料が主体で、京都系土師器・備前焼・青花といった中世府内町での典型的な資料の他、黒釉陶器皿や溶解破片など特筆されるものもある。

3. 遺構・遺物（第19～25図）

1) 遺構（第19～23図）

1区では、調査区に沿い、道路状遺構に直交するように東西方向に伸びる礎石を6基確認した。礎石の大きさは2種類あり、幅約0.5 m、厚さ0.3 mの平面立面ともに四角形状をした大型のものと、幅約0.3 m・0.4 m、厚さ約0.1 m・0.2 mで一回り小さくなるものに区分される。礎石③ははやや動いている可能性があるが、礎石面は凡そ標高5.1 m前後で



第19図 遺構配置図 (1/300)

描えられており、礎石④は石の厚さが不足したためか高さを揃える工夫が施され、礎石状の石の上に扁平な石を置き、間を平たい角礫を噛ませ固定していた。据え付けは礎石を置いた後、整地と兼ねて土を均一になるように敷き均しながら設置する。礎石間の距離は西から、1.9 m→2.1 m→3.7 m→0.8 mとなる。すべてが同じ建物になるかは判断し難いが、据え付け状況や石材の形状や大きさ、高さ等から礎石②～④は共通する部分が多い。1区の西端から中程まで広がっている明灰褐色土（第19図1区北壁土層断面8層、14層が該当）は、整地層と考えられ、この層から道路状遺構は掘り込まれ、また礎石が置かれる。

1・2区では調査区の西端で、南北方向に延びる掘り込みが認められ、その埋土が硬質で締まった砂質土であることから、道路状遺構（SFO10）と判断した。この地点が第一南北街路の推定地に該当する。出土遺物が僅少で遺構の年代は特定できないが、遺構の新旧関係や周辺の調査成果から16世紀後半以降に構築されたものと考えられる。

1区のSFO10下位からは、南北方向に伸びる溝状遺構を確認した。断面は逆台形を呈し、上位部分に不整合が認められるため一度掘り返しが行なわれていることがわかった。出土遺物に青花碗口縁部片（小野分類E群か）があり、16世紀後半頃に埋没したものとみられる。

2区は全面に火災後の処理に伴う整地層が広がり、その下位から多くの遺構が検出できたが、擁壁による遺跡への影響がないことが判明したため、遺構の掘削は行っていない。しかしながら、1区と比較すると、礎石状の石や礎・焼土・炭化物の出土が顕著であった。

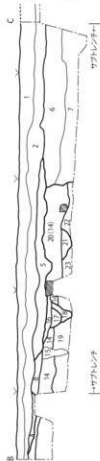
2) 遺物（第24・25図）

今回の調査で取り上げた遺物の多くは、16世紀後半～末段階に該当するものであった。出土遺物は収納用コンテナの6箱分であり、傾向として1区よりも2区の方が遺物の出土量は多い。遺物は、京都系土師器皿や青花碗、中国南部産白磁皿、備前焼罌鉢や短頸壺といった中世府内町の典型的な遺物群の他に、朝鮮半島産舟徳利、中国産黒釉陶器皿などが数は少ないが見られる。その他、特徴的なものとして、溶解炉の破片がある。上部に接合部の平坦面が残る。内面の鉄分の沈着状態から溶解炉の上段部分にあたと推測される。掲載資料は一部であり、同様な破片が複

1 区北壁土層図



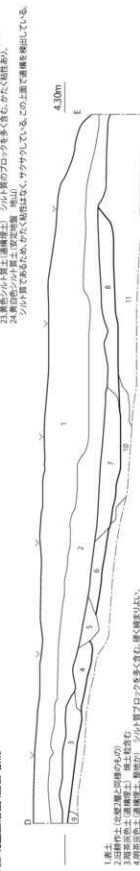
- 1 粘土
- 2 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 3 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 4 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 5 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 6 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 7 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 8 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 9 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 10 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 11 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 12 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 13 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 14 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 15 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 16 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 17 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 18 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 19 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 20 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 21 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 22 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 23 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 24 明礬灰色土 (掘りこみ)



ササラン



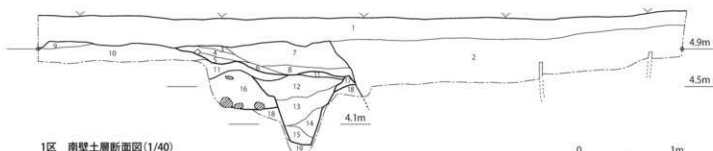
1 区北壁土層図 (立会地点)



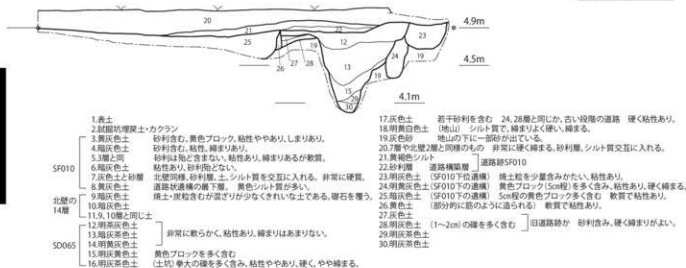
- 1 粘土
- 2 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 3 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 4 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 5 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 6 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 7 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 8 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 9 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 10 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 11 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 12 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 13 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 14 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 15 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 16 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 17 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 18 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 19 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 20 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 21 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 22 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 23 明礬灰色土 (掘りこみ)
- 24 明礬灰色土 (掘りこみ)

第 20 図 1 区北壁土層断面図 (1/60)

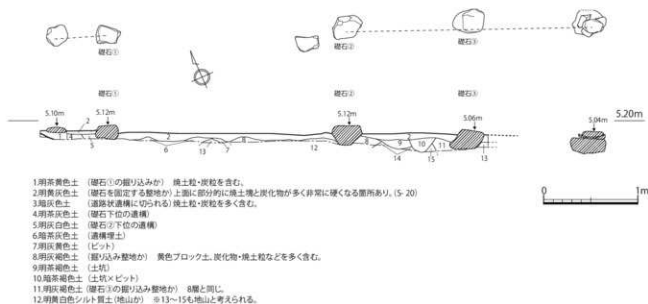
1区 北壁土層断面図(1/40)



1区 南壁土層断面図(1/40)

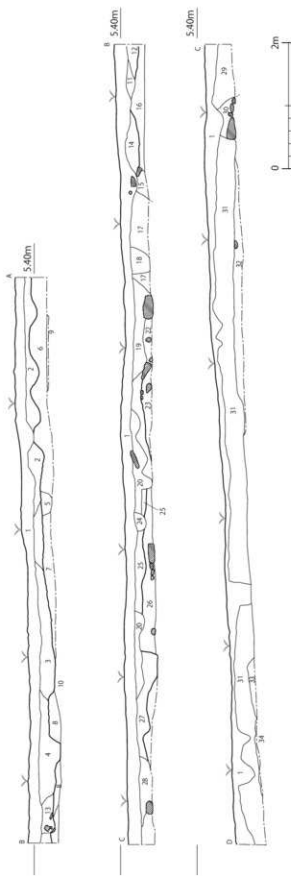


1区 礎石設置断面図(1/40)



第21図 1区北壁土層・南壁土層・礎石設置断面図(1/40)

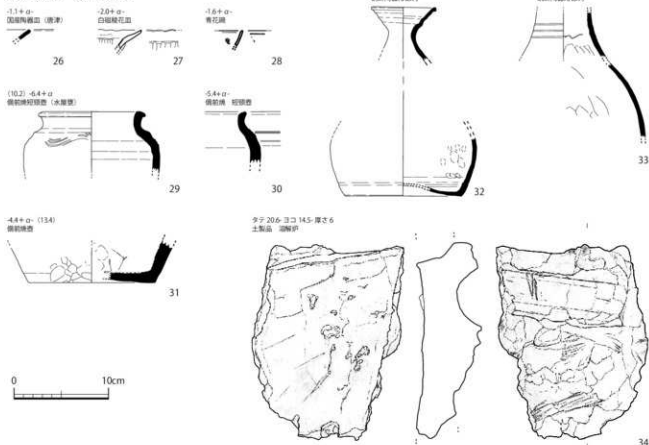
2 区南壁土層図 (1/60)



第 22 図 2 区南壁土層断面図 (1/60)

- 1 層土 17 期黄褐色土 土層下部でやや粗い塊状。しより厚くはばばして、土層上部、断層を少量含む。
 2 期土 18 期黄褐色土 5.19 層土が、断層上部に多く含まれて、やや粘性があり、やや細かい。
 3 期土 19 期黄褐色土 20 期黄褐色土 21 期黄褐色土 22 期黄褐色土 23 期黄褐色土 24 期黄褐色土 25 期黄褐色土 26 期黄褐色土 27 期黄褐色土 28 期黄褐色土 29 期黄褐色土 30 期黄褐色土 31 期黄褐色土 32 期黄褐色土 33 期黄褐色土
- 17 期黄褐色土 土層下部でやや粗い塊状。しより厚くはばばして、土層上部、断層を少量含む。
 18 期黄褐色土 5.19 層土が、断層上部に多く含まれて、やや粘性があり、やや細かい。
 19 期黄褐色土 20 期黄褐色土 21 期黄褐色土 22 期黄褐色土 23 期黄褐色土 24 期黄褐色土 25 期黄褐色土 26 期黄褐色土 27 期黄褐色土 28 期黄褐色土 29 期黄褐色土 30 期黄褐色土 31 期黄褐色土 32 期黄褐色土 33 期黄褐色土
- 17 期黄褐色土 土層下部でやや粗い塊状。しより厚くはばばして、土層上部、断層を少量含む。
 18 期黄褐色土 5.19 層土が、断層上部に多く含まれて、やや粘性があり、やや細かい。
 19 期黄褐色土 20 期黄褐色土 21 期黄褐色土 22 期黄褐色土 23 期黄褐色土 24 期黄褐色土 25 期黄褐色土 26 期黄褐色土 27 期黄褐色土 28 期黄褐色土 29 期黄褐色土 30 期黄褐色土 31 期黄褐色土 32 期黄褐色土 33 期黄褐色土

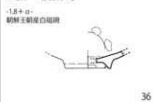
2区 SX032 (焼土層)②



2区 SD065



2区 検出時



第25図 2区②出土遺物 (1/4)

数出土している。9と14は獣骨破片であるが、それぞれに擦痕や沈線が観察できることから加工や切断の痕跡とみられる。用途は不明である。

4. 総括

今回の調査は、敷地内の一部を掘り下げたのみであり、遺跡の全容を示せるような成果を得ることはできていない。しかしながら、南北街路に沿って東西方向を主とする礎石建物跡が確認される1区と、出土遺物が多く、焼土・炭化物が顕著で溶解炉など生産に関連する遺物が出土しており、1区と2区で遺跡の様相が異なり、「場」の機能の違いを示している可能性がある。(佐藤)



1区全景(西から)



1区礎石①②③④検出状況(東から)



1区礎石①②③④北壁土層断面(南東から)



1区礎石①②設置状況(南東から)



1区礎石④疎重ね状況(南から)



1区S-65土層観察時(南から)



2区全景(北東から)



2区全景(東から)

大分市埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告書1

令和6年3月31日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号
(097)534-6111